

平成31年度自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
1) 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、3年間・5年間を見通した学力の向上を図るとともに、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。	①	教務課	昨年度の授業評価で「協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が他のアンケート項目より低い。	【努力指標】 他者と協力して学び合いながら思考を深める場面に授業に取り入れている。	「先生は、ペア学習・班活動・話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、授業形態、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。	
	②	教務課	他者の発言を聴く態度を身につけている生徒は多い。自身の考えを深め、表現する力を伸ばす必要がある。	【満足度指標】 他者の意見を聴き、互いに質問し合うなど、生徒が主体的な学びを深める雰囲気がある。	「班活動等では、積極的に参加することができた」と自己評価をした生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、指導方法を再検討する。	自分自身の学習の取り組みに対する評価を7月・12月に実施する。	
	③	専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生看護科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 <1年> 国家試験演習の専門科目の偏差値40未満の生徒数が0人である。 <2・3年> 国家試験演習の偏差値50未満の生徒で、昨年度より偏差値を低下させた生徒数が0人である。	偏差値40未満の生徒数が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。 偏差値50未満の生徒で、昨年度より偏差値を低下させた生徒数が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試（全国）を実施し、評価する。
			専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	国家試験演習の専門科目の偏差値40未満の生徒数が0人である。	偏差値40未満の生徒数が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試（全国）を実施し、評価する。
④	<1、2年生> 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。 <3年生> 分野毎の小テストや個別指導を実施することで、専門知識の確実な定着を図る。	健康福祉科	<1、2年生> 家庭学習の習慣化が十分にできていない。 <3年生> 国家試験で一定レベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 <1、2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が100%である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が100%である。	<1、2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。	<1、2年生> C以下の場合、面談を行う。 <3年生> B以下の場合、指導方法を再検討したり、個別指導を実施する。	課題の取組状況を毎日チェックし、その集計を月ごとに行う。 国家試験演習毎に確認する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2) 田鶴浜の学びをとおして、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身の育成を図る。	① 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒指導課 教育相談課	いじめの現状は認識されないものの、学校のような共同生活の場では人間関係のトラブルは起こり得るものであり、生徒のいじめ防止への意識は必要な状況である。	各種講演会や授業を通して人権教育の啓発を図ることで、「絶対にいじめを許さない」の意識が「大いに高まった」「高まった」の割合が95%以上である。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	C以下の場合はいじめの未然防止の取組の見直しをする。	6月、11月に全校生徒対象の「いじめアンケート」を実施する。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	生徒指導課	昨年度の第1回保護者アンケートは84.5%、第2回は82.7%であった。1月より改善は見られるが数値化された評価はなくどれくらいの改善であるかは明確でない。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が90%以上である	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合是指導法と取組の見直しをする。	PTA総会、7月、12月の保護者懇談の際にアンケートを実施する。
	③ 積極的な部活動参加のため、部長会議を開催し、情報交換やリーダーシップ育成を行う。	生徒会	実技練習等があり、部活動の参加率が減少する時期がある。	【成果指標】生徒が部活動と勉学の両立を図ろうとする。	アンケートにて「活動日にはほぼ参加できた（寮閉鎖などで不可の日は除く）」と解答の生徒の割合が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 60%未満 である。	CまたはDの場合は取組方法を検討し、呼びかけ等を行う。	7月、12月の授業アンケートと共に実施する。
	④ 縄跳びの実施により、自己記録の更新に努めながら、たくましい心身の育成を図る。	体育科	昨年度のスポーツテストの結果では、筋力と持久力の項目が県平均より下回っているため、向上させる必要がある。	【成果指標】3分間、縄跳びを続けて跳ぶことができる。	3分間で縄跳びを300回以上跳ぶことができる生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%以上	CまたはDの場合は個別指導を行う。	体育の授業内で定期的に計測を行う。

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	①	総務課 教務課	地域の医療機関・福祉施設等への就職者数は維持している。健康福祉科の志願者数は十分ではない。	【最終成果指標】 昨年度より本校の志願倍率が上回っている。	一般入試の志願倍率(学校倍率)が 1. 10倍を A 上回った。 B 同程度だった。 C 下回った。 D 大きく下回った。	C以下の場合、 広報活動の方法の見直しをする。	
	②	衛生 看護科	5年一貫教育における看護師養成についての中学校教諭及び保護者、生徒の理解が十分とは言えない。	【成果指標】 体験者アンケートで「5年一貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が90%以上である。	体験者アンケートで「5年一貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、 広報活動の方法の見直しをする。	体験入学、学校説明会、出前授業などの際、その都度アンケートを実施する。
	③	健康 福祉科	生徒が作成した健康福祉科のPR動画をホームページ内に取り入れ、多くの方に健康福祉科の魅力を知らせてもらう。	県内において、健康福祉科に対する理解が十分ではない。	【成果指標】 ホームページ内の健康福祉科PR動画の再生回数が 10000回以上である。	PR動画の再生回数が A 1ヵ月1250回以上 B 1ヵ月1200回以上 C 1ヵ月1150回以上 D 1ヵ月1150回未満である。	C以下の場合、 再度、PR動画についてのPRを積極的に行う。

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 業務改善の推進により教職員の多忙化の改善を図る	①	管理職	教員間で、大きなバラツキがあるが、昨年度の勤務時間外勤務は平均で月45.1時間である。	【努力指標】 多忙化改善のため、学校業務の平準化を図り、時間外勤務時間を縮減させる。	具体的取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 である。	C以下の場合、 改善方法を再検討する。	毎月の勤務時間記録をもとに判断する。